

平岡いきものはっけん隊 隊報

季刊

湘南自然誌 Vol.5

2017

春

の記録号

〈巻頭特集〉「平岡幼稚園ビオトープの
あゆみとこれから」

おこのぎ のぶお きし
小此木 宣夫 先生 & 岸 しげみ 先生

全国森林インストラクター
2級ビオトープ管理士

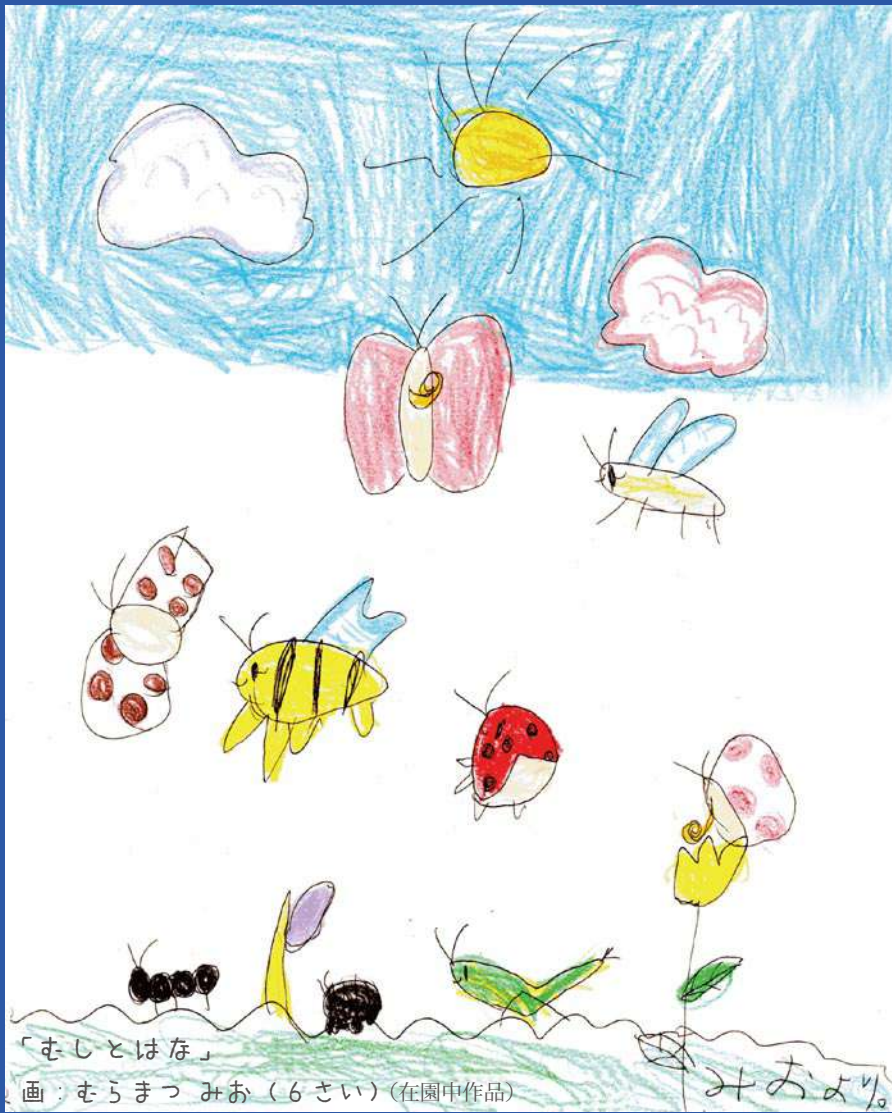
1級ビオトープ管理士



堀田佳之介 副園長

ハマヒルガオ

4月、茅ヶ崎西浜海岸にて



「むしとはな」

画：むらまつ みお（6さい）（在園中作品）

みおより

P1

とっておきの1枚！
写真投稿コーナー

はっけん隊について

P2-8

巻頭特集 3者対談

「平岡幼稚園ビオトープの
あゆみとこれから」

P9-P13

2017.3月-5月
生き物はっけん記録

P14

第4回『あいだ先生のチョウ教室』

ひらおか四季のたより

P15-16

はっけん隊活動報告

P17

特集2 生き物観察に役立つ豆知識
「おぼえておきたい！あふない生き物」

P18

『むしむし WANTED!』第1弾
はっけん隊のからの
お知らせ

P19

絵画投稿コーナー

おえかぎひろば

大人向け企画

野の草花

風景

カメラ好き・写真好きな
お父さんお母さん
とおきの一枚をここに
載せてみませんか？
機材は、一眼レフ
コンパクトデジカメ
スマホ なんでもOKです

昆虫

とおきの一枚！
写真投稿コーナー

写真大募集！ テーマは『自然』

撮影者名と題名を添えて下記アドレスまでお送りください。
ikimono@hiraoka-kg.com

写真は一例です。
生き物や風景のきれいな写真、
楽しい写真をお待ちしています。

自然とふれあう 子どもたち

鳥

「平岡いきものはっけん隊」って？

「平岡いきものはっけん隊」(略称:はっけん隊)は、平岡幼稚園の在園児と卒園児及びその家族と、教職員、有識者による顧問等で構成されています。平成28年3月に佳之介副園長の呼びかけで発足しました。あつまりやイベントへの参加義務はなく、隊員それぞれができる範囲で自然と関わる機会を作っています。

「湘南自然誌」はどんな本？

「湘南自然誌」は、隊の活動報告やみんなが見つけた生き物を記録に残していく隊報です。みんなで積み上げた記録は今後の研究や保全活動に活かされていきます。また、本誌は生き物の不思議・面白さをより深く知ってもらうための教育誌でもあり、隊の活動を外部にアピールする広報誌でもあります。

地域の自然をまもるために

自然の恵みを未来の世代まで受け続けるには、地域の生物多様性を守りつつ、より豊かなものとしていかななくてはなりません。この隊は、身近な自然に親しみながら、地域の自然を皆の力で守っていくことを目的とします。

活動目的

この隊は、次代を担う子どもたちが、自然とのふれあい活動をおとして、自然に親しみながら、

園児の教育のために

平岡いきものはっけん隊

ぼうし・ながそで・ながズボン！
を心掛け、生き物についての知識を深めていくことで多くの危険は回避できます。

安全第一！

お約束

人間の手で生き物を移動させることは控えましょう。どうしても時は、その生き物が自然の力で移動できる範囲にとどめましょう。

豊かな心と健やかな身体の育成をはかれるようにしていくことを目的とします。

持って帰るなら最後まで飼う、 逃がすなら元の場所に！

【はっけん隊の先生紹介】

名誉顧問:岸一弘 (日本生態学会会員)

世話人:會田重道 (日本鱗翅学会会員)

呼び掛け人:堀田佳之介

(平岡幼稚園副園長・日本セミの会会員)

漢字の「田」の字に似ていることから「デンジソウ」の名が付きまして。四つ葉のクローバーに似ていますが、水田などに生えるシダ植物です。近年激減しており、平塚市内では平岡幼稚園の近くで見ることができなくなっています。

デンジソウ

平岡幼稚園ビオトープの あゆみとこれから

平岡幼稚園

堀田佳之介 副園長 × 岸しげみ先生 × 小此木宣夫先生

1級ビオトープ計画管理士
1級ビオトープ施工管理士

きし

全国森林インストラクター
2級ビオトープ施工管理士

おこのぎ のぶお

〈岸しげみ先生 Profile〉

1992年から湘南の谷戸の保全活動（谷戸の借り上げ・保全エリアの設置・谷戸関連のシンポジウムの開催等）に取り組む。2001年から茅ヶ崎市内小中学校の総合学習の講師を務め、校内ビオトープ作りの指導も行う。茅ヶ崎市自然環境評価調査〔昆虫〕のリーダーでもあり、藤沢市の自然環境実態調査にも参画するなど、生物調査も盛んに行っている。1級ビオトープ計画管理士・1級ビオトープ施工管理士
神奈川県自然保護協会理事
茅ヶ崎野外自然史博物館・茅ヶ崎のカエルを守る会事務局
ネットTV「湘南 nature チャンネル」司会

〈小此木宣夫先生 Profile〉

長く会長を務めた茅ヶ崎里山公園倶楽部（県立茅ヶ崎里山公園内の保全団体・会員数1000名前後）で里山の保全活動に従事。全国森林インストラクター、2級ビオトープ施工管理士などの資格を持ち、その専門性を活かして保全後継者の育成に取り組む他、市内小中学校の観察会にも協力している。現在、「茅ヶ崎市みどりの基本計画」にも関わり、みどり審議会委員を務め、市内のコア地区（生物多様性の高い地域）の保全・調査活動に参加している。

3者対談

平岡幼稚園ビオトープの あゆみとこれから

平岡幼稚園で初めてビオトープを作ったのは平成21年4月、平岡の森の湧き水があったところに、池を作ってみたのが始まり。はじめは水が溜まるのか半信半疑だったものの、翌朝、掘った穴に水が溜まっていた。

●当初のプラン

1. アメリカザリガニ釣りができる場所を作ってみようか？
2. 魚（メダカなど）を入れようか？
3. ホタルが発生すると嬉しいな（移入してみようか？）

丁度、時期を同じくして、当時の園バス運転手の知り合いだったビオトープ管理士の方と一緒に、本特集のゲストとしてお迎えした小此木さんと岸しげみさんが見学に来て下さった。これが平岡幼稚園ビオトープの大きな転機となる。

堀田佳之介（以下 堀田）> 本日は忙しい中お時間を作っていただきありがとうございます。先程幼稚園のビオトープを視察していただきましたが、どうでしたか？しげみさんは2年ぶり、小此木さんは8年ぶりくらいですが。

小此木宣夫（以下 小此木）> 住宅地の中にしっかり生態環境が維持されているのがすばらしいですね。しかも流水・止水と変化をつけてる。ここは水と緑のオアシスになってますね。

平岡ビオトープのはじまり

堀田> 8年前に小此木さんが水の流れを調べてくださって、ここをちょっと掘れば池がもう一つ出来そうだって分かって二つ目の池（むしむし池）を作ったんですね。さらに東側からも水が多く流れ込んでいたので、この水もうまく利用すればもっといろいろな環境が作れそうだとあって、一番大きな池のこんちゅう池ができた。

小此木> そうそう、思い出しましたよ。ここに来てまずは崖からの水をいかに有効に使うかを第一に考えたんです。水辺が増えればより多くの生き物が来ますからね。それでいろんなところに小さな穴掘ったり升を開けてみたりして、どこからどう水が流れてきてどこへ抜けてるのか調べましたね。

堀田> そうでしたね。平岡の森は道路を挟んでいるので園児が自由には来れませんから、その後園庭の方にも大きな池を二つ作ったんです。草を刈らないエリアも作ったりして、園庭ビオトープとして管理しています。園庭の方は木が



2009年9月
平岡の森で池作りをする
小此木さん



① 平岡の森ビオトープ

平岡の森は、伊勢原台地の斜面林と沖積低地で構成されています。低地部は、台地の麓から出る湧き水によってジメジメとしています。推定樹齢100年を超えるケヤキやクスノキがあるなど、樹木が多く、全体的に薄暗い環境です。2009年に湧き水を利用して4つの池と小川を作りました。それぞれの池に、明暗・植生など微妙な変化をつけています。表土が残されている為、この土地本来の植生が残されています。通路以外の草刈りは最小限に留めています。



④ 運動場ビオトープ

中央部分はグラウンド状になっているため、その周囲がビオトープになっています。水辺はありませんが、クヌギ・コナラ・果樹などにはコガネムシ科の昆虫やタテハチョウ類などが集まり、落ち葉を集めて作った「カブトムシのおうち」ではカブトムシが繁殖するなど、里山の消失が著しい岡崎地区の樹林性の生き物も多く見られます。

【平岡幼稚園のビオトープで確認できた主な生き物】(平成29年5月現在)

トンボ目…ギンヤンマ・クロスギンヤンマ・ヤブヤンマ・マルタンヤンマ・●カトリヤンマ・★コシボソヤンマ・オニヤンマ・コオニヤンマ・シオカラトンボ・シオヤトンボ・オオシオカラトンボ・コシアキトンボ・ショウジョウトンボ・ウスバキトンボ・★タカネトンボ・コノシメトンボ・アキアカネ・★ナツアカネ・★マユタテアカネ・★リスアカネ・●ミヤマアカネ・★ハグロトンボ・アオモンイトトンボ・アジアイトトンボ・ムスジイトトンボ・※ホソミイトトンボ・オオアイトトンボ (全27種)

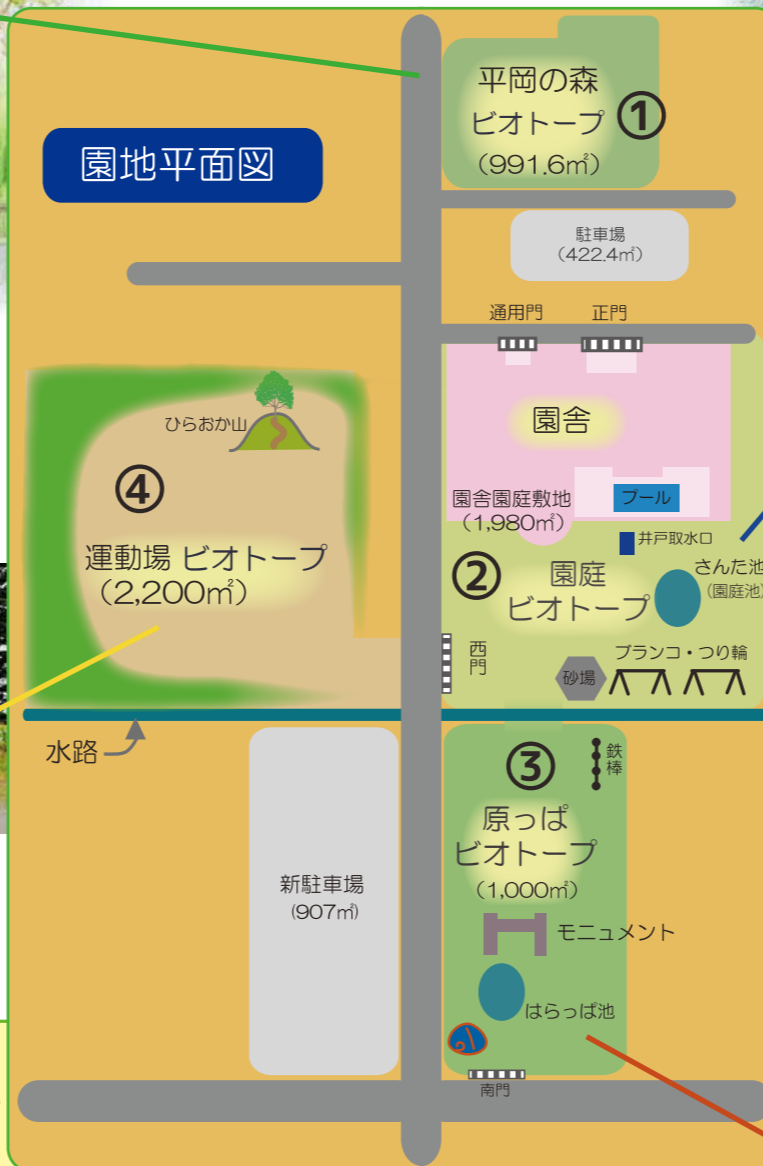
チョウ目…ナミアゲハ・キアゲハ・クロアゲハ・モンキアゲハ・ジャコウアゲハ・ナガサキアゲハ・アオスジアゲハ・モンシロチョウ・スズグロシロチョウ・キタキチョウ・モンキチョウ・ツマキチョウ・イチモンジセセリ・コチャバネセセリ・キマダラセセリ・ベニシジミ・ヤマトシジミ・ルリシジミ・ウラナシシジミ・ウラギンシジミ・ムラサキシジミ・ムラサキツバメ・ツバメシジミ・ヒメジャノメ・ヒメウラナシジャノメ・ヒカゲチョウ・サトキマダラヒカゲ・クロコマチョウ・アカタテハ・ヒメアカタテハ・キタテハ・ルリタテハ・コムシジ・ツマグロヒョウモン・ヒオドシチョウ・テングチョウ・ゴマダラチョウ・▼アカボシゴマダラ (チョウ類全38種)、◆マエアカヒトリ・◆オオミノガ (ガ類他多数)

コウチュウ目…カブトムシ・コクワガタ・ノコギリクワガタ・■ヒラタクワガタ・★ヤマトタマムシ・●ウバタマムシ・ヒシモンナガタマムシ・ドウガネブイブイ・コガネムシ・アオドウガネ・ヤマトアオドウガネ・コフキコガネ・オオコフキコガネ・コアオハナムグリ・シロテンハナムグリ・ヒメカンショコガネ・セマダラコガネ・カナブン・クロカナブン・■ルリカミキリ・ゴマダラカミキリ・ベニカミキリ・キボシカミキリ・▼ラミーカミキリ・ナガゴマフカミキリ・ヒメスギカミキリ・シラハタリソコカミキリ・ナナホシテントウ・ナミテントウ・ダンダラテントウ・ヒメカメノコテントウ・キイロテントウ・ハラゴロオオテントウ・キマフリ・●コガムシ・ヒメガムシ・キベリヒラタガムシ・コシマゲンゴロウ・ハイイロゲンゴロウ・ヒメゲンゴロウ、他多数

その他…◆コオイムシ・★ケラ・▲カワラヒワ・▲ツバメ・▲キセキレイ・▲モズ・▲アカハラ・★ヒガシコホントカゲ・●ヒバカリ・★アオダイショウ・★シマヘビ

その結果、園内には周囲から様々な生き物が集まるようになりまし。園児は、地域の多様な自然に囲まれて、毎日自然とふれあひながら遊んでいます。

平岡 幼稚園 ビオトープ 全体図



平岡の森
ビオトープ ①
(991.6㎡)

駐車場
(422.4㎡)

通用門 正門

園舎

園舎園庭敷地
(1,980㎡)

② 園庭
ビオトープ

西門

プール
井戸取水口
さんた池(園庭池)
ブランコ・つり輪
砂場

③ 原っぱ
ビオトープ

(1,000㎡)

鉄棒
モニュメント

はらっぱ池

南門

新駐車場
(907㎡)

水路

神奈川県レッドデータ
生物調査報告書2006

- ◆印は絶滅危惧Ⅰ類
- ◆印は絶滅危惧Ⅱ類
- 印は絶滅危惧Ⅲ類
- 印は準絶滅危惧種
- ★印は要注意種
- ※印は情報不足種
- ▲印は減少種

(▼印は外来種です。)

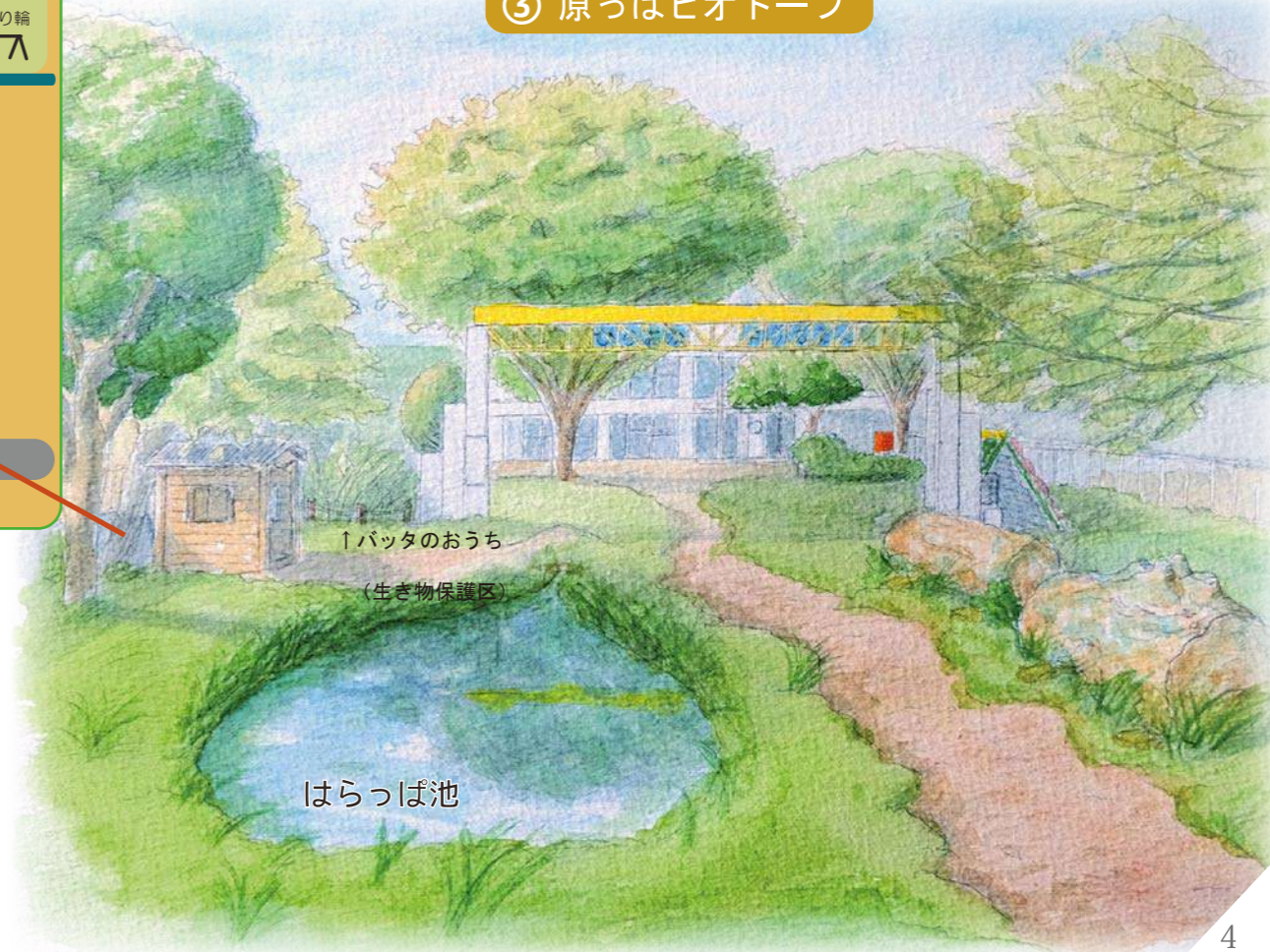


② 園庭ビオトープ

園庭には2013年に、原っぱには2014年に保育参観で作った池があります。平岡の森の各池に比べると、どちらも明るい水面になっています。草地もまた、平岡の森とは対照的に乾燥したのになっています。

生き物の安定した生息場所を確保するため、原っぱには子どもの立ち入りを制限するための生き物保護区「バッタのおうち」を設置しています。

③ 原っぱビオトープ



1 バッタのおうち
(生き物保護区)

はらっぱ池

少ないですし、平岡の森とは集まる生き物が全然違うんですね。そういう変化も付けられました。しげみさんからはどうでしょうか？作った後も園の観察会に講師として来ていただいたりしてますが、他の幼稚園にはない平岡ビオトープの特色って何かありますか？

岸しげみ（以下岸）＞平岡の森には、台地斜面を中心に元からの表土が残っているのいいですね。オドリコソウやヒメウズ、カントウタンポポにムラサキケマン。自然豊かな丘陵地に行かないと見れないような植物が壁面のように残ってる。カントウタンポポを実際に子どもに見せてあげられる環境なんてこの地域でもあんまりないと思いますよ。



平岡の森斜面林の簡易調査中

小此木＞オドリコソウがこんなに生えてるの初めて見たよ。

岸＞茅ヶ崎あたりだとほとんど絶滅状態ですね。大磯や平塚だとある程度はあるんですけど、こうやって

るようになってくれて本当にありがたいなと思います。ビオトープ管理士にわざわざ聞いてくださったことに感謝です。あそこが分かれ道で、普通だったら子どもたちに何か触れ合わせたいって考えて人気のあるもの（ザリガニとかメダカ等）を入れてしまって、本来のビオトープではないビオトープになってしまうんですよ。



斜面林のヒメウズ

カントウタンポポの特徴を観察中

小此木＞そうそう、そこが勘違いされやすいところなんです。ビオトープは元々野生の生き物の生息空間のことなのであって、持ち込んだ生き物を飼育する場所ではないんです。

堀田＞水が溜まった以上何か入れたくなっちゃうんですね。持ち込まなくてもちょっと待ったらすぐにトンボが産卵に来てビックリしました。2、3ヶ月後にはオオシオカラトンボやヤブヤンマのヤゴが見つかったり、案外すぐに成果が出たんで、あそこで生き物を入れなくてホントに良かったなと思います。

子どもたちに間近で見せられるようなところにはないですね。

堀田＞今日も「春を探そう」って園児たちが平岡の森に来てたんですけど、オドリコソウを摘んで遊んでました（笑）



斜面林のオドリコソウ

オドリコソウを手にして遊ぶ園児たち

最初はザリガニを…

堀田＞平岡幼稚園で初めてビオトープを作った頃、水が溜まってまず初めに「何を入れよう？」と思ったんですよ。その頃私は全然知識がなくて、ここにザリガニ入れたら園児たちとザリガニ釣りできそうだなとか、魚も飼育したかったんでメダカを入れたらいいかなとか、ホタルも見れたらいいかなとか考えてたんです。そんな時に小此木さんとしげみさんたちが来てくれて、「生き物は持ち込まない方がいい」って教えていただいたのがホントに大きかったですよ。

岸＞確かにあの頃は「ザリガニ入れようか？」なんて言ってたね（笑）それがここまでのビオトープを作

なぜ人為的な移入はいけないのか？

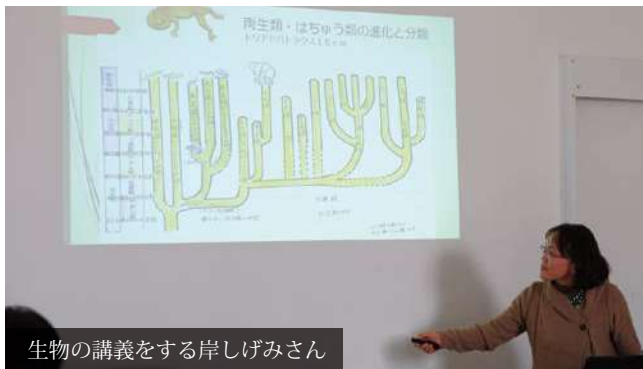
堀田＞父母の皆さんに向けて、なんで生き物を持ち込んだらいけないのか分かりやすく説明していただけますか？

岸＞生き物は色々な種類が関係を持ちながら時間をかけてバランスのとれた社会（生態系）を作っているんです。そこへ人間が良かれと思って何かを持ち込むと、見えないところでその力関係が変わってしまう。例えば、学校のプールにヤゴがいっぱい発生してて、水を抜いたらかわいそうだって近くの池に放してしまうことがあるわけ。人間は「あー良かった、沢山のヤゴを助けた」って思うんだけど、その池に元々いた虫たちのバランスを崩してしまう。ホントはプールの水が抜かれたら死んでしまうのは仕方ないことなんだけどね。それじゃあんまりだって思うなら、例えば捕まえたヤゴを水槽に入れて棒を立てて、羽化して飛び立っていくのをみんなで観察するとかそういうふうにするといい。

堀田＞生き物が自力で移動するのは自然の営みの範囲内だけど、人間が持ち込むのは不自然ですね。

岸＞そうそう。生き物が自力で移動して生息する種が置き換わったりそういうことは長い歴史の中ではあるんですよ。でも急には変わらないんです。ゆっくり変わっていく。ところが人間が関わると一気に変わってしまう。たとえば外来の植物を移入してしまうと、短時間のうちに一面外来種だらけになって、在来種が

生えていた場所がなくなってしまう。さらにはその在来の植物を食べていた昆虫も一緒にいなくなってしまう。昆虫は決まった植物を食べるものが多いですからね。人間が生き物を持ち込むと生態系をおかしくしてしまうんです。



小此木 > ホタルなんてどこかから持ってきて入れても周りに影響を与えないような感じがするじゃないですか？でも見えないところでは何が起きてるのか分からないよ。ひとつ外から持ってくると生き物が一種増えたように思えるけれども、結果的にはバランスが崩れて減ってしまう。多様性が下がってしまうんですよ。

堀田 > 入れるのは簡単だけれども、それで大きな被害が出てじゃあ元に戻そうって思ってももう戻せないですよ？

小此木 > そうですね、ホタルの幼虫の餌となるカワニナがない場所ではカワニナも移入された上に、そ

をして「これは初記録だ！」って思っても、「あっ、それ昨日入れました」なんてことになるともうその地域の生物相が訳が分からなくなってしまう。



岸 > あとね、ホタルだったら移入先に元から絶対いないとは限らないでしょ？もしいた場合その元のホタルと交配してしまう。そうすると遺伝子レベルでは多様性を無くすわけよ。そういう問題も起こってしまいかねない。だから、人間は環境を良くすることだけに留まっておいた方がいいんです。

堀田 > そうですね。平岡幼稚園では「持って帰るなら最後まで飼う、逃がすなら元の場所に」というルールを作って、園児たちにも人為的な移入がいけない理由まで自然に分かってもらえるようにしています。



れに混じていたコモチカワツボなどの外来種も増えてしまって、駆除が困難になってる例もありますよね。

岸 > そう、だから作るのは環境だけ。生き物は来るのを待つんですよ。あとホタルはマスコミにも受けが良くってね。あたかもいいことをしてるかのよう報道されてしまったりするんよ。

小此木 > 茅ヶ崎里山公園ではヒガンバナなんかもどんどん植えられちゃって、2、3年経つと「前からここにはヒガンバナが生えてるんですよ」って言い出す人が出てくるんですよ。ついこの間植えられたものなのに、「昔からありましたよ」ってなっちゃう。この10年、そうやって植えられた草花を刈ったり掘ったりしてきたけど、まだまだ移入に罪の意識がない人が多いね。

堀田 > 元々ここには何がいたのか、どういう土地だったのか、分からなくなっちゃいますね。生き物の調査

私立幼稚園だからできた

小此木 > そうやってビオトープを教育に利用できるのが大きいね。ここは始めて8年ですか。頑張ってますね。

岸 > 公立小学校なんかだとなかなかそこまで続かないんですよ。興味を持っている先生が異動してしまうとそこで終わっちゃいますから。私立の幼稚園だと堀田さんみたいな柱がいれば長く続けられるんですね。

小此木 > 幼稚園は2年間？

堀田 > 3年ですね。長い子は4年近くいます。

小此木 > 私は4歳から7歳半まで天竜川上流の山里に疎開してて、ホントに野性的な生活をしてた。幼稚園児の頃は五感が冴えてて感性が柔らかい時期ですからね。一番大事な時にこういう環境で自然体験ができるのがいいね。

岸 > 私は四国の山の方、すごくいい環境で育ったので、いつも自然が身近にあった。虫は友達でしたよ。でも今の子はそうはいかない。子どもに自然体験をさせたいたいなんて思ってる親の子しか自然体験ができない。でもこの幼稚園では虫が好きな子も嫌いな子もみんなここで遊ぶわけでしょ。それが素晴らしいね。どこかへ行かなくても園生活の中で日々自然の変化を感じ取れる。

堀田 > そうであって欲しいなんて思って日々工夫しながら園の環境整備をしています。

小此木 > 私も茅ヶ崎里山公園の整備に関わっているんだけど、自然系の人でもいろんな人がいてね。自分の好きな虫のことしか考えない人もいるんですよ。そういう人には生物多様性の大切さも学んで欲しいですね。幼稚園ではより大きな自然観を育てて行ってくれたら嬉しいです。

岸 > もちろん好きな虫から入っていいんだけど、その虫とほかの植物の関係とか興味を膨らませて行って欲しいですね。一つ聞いていい？日ごろ幼稚園ではどういふ活動してるの？時々うちの夫（岸一弘・はっけん隊顧問）を呼んで観察会をしたりしてるけど（笑）



平岡の森での観察会で生き物講義
はっけん隊顧問 岸一弘先生

遊具を使わない遊びが大切

堀田 > 園地全域をビオトープとして管理するようにしてるので、まずはそれを活かそうと思ひまして、園児が屋外で自由に遊べる時間を多く作っています。

にもかかわらず 21 種確認できました（笑）ビオトープを作ってからだと今まで 27 種類のトンボが来てます。

岸 > それは素晴らしい！環境を作って生き物呼び込むってことが、地域の自然に貢献してるってことですよ。ビオトープを作ってる学校は結構あるけど、ホントに地域の自然環境のためになってるかというところは思えないところもあるのよね。

堀田 > 岡崎地区は池がほとんどなくて、水辺といえば川と田んぼくらいなんですけど、それでもこれだけ集まってくるんですね。

岸 > 神奈川県って止水域が少ないことで有名なんです。池がないんです。何も無い場所でも池を作るとたくさん生き物呼び込めるってことをアピールして、ご家庭でも池を作ってくれと嬉しいですね。ただ、湿地のような大事なところを壊して池にするのはダメだけだね。



むしむし池で生き物探し

虫が好きな子は虫探しをしていますし。うちは園庭に固定遊具があんまりないんですよ。生き物、草花が遊びの種になるっていうんですかね。そこで自分で楽しいことを探して遊んでいる中で自然と生き物たちと仲良くなっていったらいいなあと思ってます。

岸 > いいことですね。それがこの幼稚園の魅力ですよ。遊具を使わない遊びが大切だね。

堀田 > たとえばみんなで池の周囲を調べてヤゴの抜け殻を集めたりもしてるんですよ。それでどんな種類がどれくらい出てるか記録してるんですけど、去年は 9 種類の抜け殻が見つかって数は 1748 個でした。



平岡の森で集めた
トンボの抜け殻

岸 > これはすごいねえ（笑）いろんなタイプの水辺がないとこまでの種類は発生しませんよ。

堀田 > 「フォーラム トンボの棲むまちづくり」^{*}での調査の中間報告（2015 年 4 月～2016 年 6 月）では平塚市内で 20 種を超えたのは土屋とか西部丘陵の自然の豊かな地域なんですけど、平岡幼稚園では環境的には単調な地域

小此木 > ～トンボの抜け殻を手にしな～これだけの命はここがなかったら産まれてなかったってことだね…生き物は常に自分の住処を探してるから、いろんな場所に住処を作ってあげるのも大事だね。

岸 > トンボの他にセミの調査もしてなかったっけ？

堀田 > 私がインタビューされてますね（笑）もう今年で 4 年目になるんですけど、平塚市内のセミのぬけがら調査を園児の父母も交えてかなり大規模にやっています。その成果は平塚市博物館の研究報告として発表しています。



昨夏のセミのぬけがら調査の様子

岸 > あなたは子どもたちに生き物の世界の道案内をしていますね。園内での遊びから始まって、私たちがやっているような自然観察会に園児たちを連れて行ったり、さらには本格的な調査や発表といったところまで引張って行って。

住む街すべてがビオトープ

堀田> 園内には作れない谷戸や海岸などいろんな環境を子どもたちに体感してもらいたいので、外へも積極的に繰り出すようにしてるんです。あと外へ出るようにしてる理由はもう一つありまして、園に想像以上に生き物が集まってきた一方で、ジャコウアゲハとかは最近見られなくなっちゃったんですね。幼稚園でいくらウマノズクザを残しておいてもどうしようもないこともある。なので、「住む街すべてがビオトープ」と考えを広げて、周辺地域も含めた環境の保全をしていきたいと思っているんです。

岸> 具体的にはどういう活動してるの？



堀田> 実際自然環境の保全活動に携わるきっかけが昆虫採集だったっていう人は多いですね。



ビオトープ運営の難しさ

堀田> 学校や公園での活動実績があるお二人にお聞きしたいのですが、今ビオトープの見た目の良さや生き物の住みやすさのバランスを取るのに苦心してるんです。そのあたり具体的にどうされていますか？

岸> それが学校ビオトープの悩みなんよ。花壇に花を植えるのはすごく喜ばれるんだけど、草を残すと苦情が来る。そこは小此木さんも苦労されてませんか？

小此木> 里山公園では止む無く目立つところは刈るようにしてる。あと、手を加えてますっていうのが分かるようにエリアを分けて交互に刈ったり。刈ってるところがあるってところを見せるだけでも違いますよ。刈る場合も高さ 15 cm くらい残せば生き物への影響は少ないしね。

堀田> ありがとうございます。参考にさせていただきます。では最後にお二人から一言お願いします。

堀田> 園内と違って管理方法を変えたりとかはできないですから、今ははっけん隊のみんなで地域の生き物の記録を取っていく活動をしています。保全のベースになるのは記録だと思うので。園児が見つけてくれた生き物のなかから、「これは公的に発表しなくちゃ」っていうものも見つかるんですよ。～昆虫標本を手渡す



岸> きれいに作ってるね。上手よ、上手。

堀田> 岸（一弘）さんに教わったんですよ（笑）

岸> 昆虫標本はね、希少なものも際限なく採っちゃう人がいて一時期すごく問題視されたんだけど、そんな個人的な採集とは比較にならないような被害を与える森の伐採だとかに反対してくれるような人に育つきっかけが昆虫採集だったりするわけよね。少々の採集なら特に問題がないような虫については捕ってもらっていい。さらにそこから自然について考えを深めていってこれればいいの。

平塚の自然のメッカに

小此木> 「昆虫なんて追っかけまわしたって何の役にも立たないでしょ」ってお母さん方は思うかもしれないけど、ここで学んだことがきっとどこかで役に立つことになると思うよ。園児たちには、人間も生き物の仲間であり、自然や生き物たちに活かされているという根本を理解して、自然を大切にしてくれる大人になってくれることを期待しています。平岡幼稚園の自然教育、工夫しながらぜひ続けて欲しい。20年30年続けたら平塚の自然のメッカになるよ。今度来たらアパートが建ってたなんてことにならないようにね（笑）

堀田> はい、頑張ります。それではしげみさんから。

岸> 最初は「ザリガニ入れようか？」なんて言ってたあなたが、今や県立博物館に報文を出したりするまでの力をつけて、他所にも子どもたちを引っ張って行って、子どもたちを伸ばそうとしている。そうやって水先案内人になってる姿が感動的です。ぜひこれからも幼稚園だからこそできる自然体験教育をして欲しいですね。子どもの頃に、人間が作り上げた世界とは違う世界があることを知っておくのは、いつか力になると思うから。

堀田> そうですね。隊員みんなで力を合わせて、これからも多方面に活動をしていきたいと思っています。今日はいいお話をありがとうございました。

平岡幼稚園ビオトープ特集 終